

ベトナム人技能実習生の受診行動を抑制する要因の実態調査

A study of factors influencing medical examination behavior of Vietnamese technical intern trainees

氏名：LE THI THU HUONG

担当教員：渡辺羊子 戸塚恵子

東京純心大学 看護学部 看護学科

日本における外国人技能実習生総数は2,048,675人であり、その多くは医療機関受診時に言語、経済的負担、病院システムの理解などの問題により受診を控える傾向がある。本研究は受診行動を抑制する要因を明らかにし、受診を促すためにはどのような支援が必要なのかを明らかにする。

〈キーワード〉：ベトナム人技能実習生、受診行動、受診抑制要因

1. 緒言

私は外国人技能実習生の医療相談や受診の付き添いをした経験がある。その中には、症状が悪化してから受診をする人も多かったが、受診したが改善が見られず、治療の継続をためらう人もおり、私はこのような人に対する支援について考えさせられた。

外国人技能実習制度は、我が国が先進国としての役割を果たしつつ、国際社会との調和ある発展を図っていくため、技能、技術または知識の開発途上国等への移転を図り、開発途上等の経済発展を担う「人作り」に協力することを目的として1993年に開始された¹⁾。それ以降、年々在日外国人が増加している。この制度の分野は農業、漁業、建設、食品製造、機械・金属や印刷・製本など多岐に亘る。2023年10月31日現在90職種165作業は技能実習制度を利用し、技能実習生総数は2,048,675人である²⁾。

外国人技能実習生の問題として小林³⁾は健康問題を挙げ、その理由として東南アジアの結核蔓延国の出身者が多いことや建設業において死傷災害の発生リスクが高いと指摘している。しかも、外国人技能実習生が疾病・傷害に罹患したさい日本の医療機関での受診を躊躇する人も多い。医療機関での受診を躊躇する要因について、清水⁴⁾は外国人技能実習生の多くは多国籍であり、文化的ストレスの問題があると推測している。更に、外国人技能実習生の約90%は18～39歳と若い世代であることからリプロダクティブヘルスの問題も抱えている³⁻⁴⁾。しかしながら、日本における外国人技能実習生の健康管理、メンタル

ヘルスのサポート、受診への支援などの対応は充分とはいえない。

先行研究によると外国人技能実習生の受診行動の抑制要因は言語であり、日本語の理解ができず、自分の症状や主張を十分に伝えられないことが指摘されている⁵⁾。言語の問題以外にも病院までのアクセスや病院の受診システムが理解できず、受診を躊躇する人も多い。それ以外にも経済的負担や時間調整などの問題がある。加えて外国人の場合、受診のさい患者1人1人の文化的背景が目されず、医師や看護師の対応が十分とは言えない場合もある⁴⁻⁶⁾。

今回、外国人技能実習生の受診行動を抑制する要因を明らかにし、必要な時に安心して受診できる外国人技能実習生のための支援について考察する。

研究目的

本研究は外国人技能実習生のうち、25.3% (518,364人) を占めるベトナム人技能実習生²⁾を対象に彼らの受診行動を抑制する要因について明らかにする。

2. 研究方法

- 1) 研究デザイン：Google Formを用いた無記名自己記入式アンケート調査による量的研究
- 2) 研究対象者：関東地方に在住しているベトナム人技能実習生は63,953人(2023年12月時点)⁷⁾である。ベトナム人技能実習生に直接研究を依頼することは困難なため、以下の団体、施設に

研究協力を依頼することとする。

- ① 日本カトリック難民移住移動者委員会
- ② 外国人技能実習生権利ネットワーク
- ③ イエズス会社会司牧センター

調査は2024年10月～12月の3カ月間に、各団体に来所した滞在期間1～5年間のベトナム人技能実習生300～500人を対象とする。

3) データ収集方法

- ① 研究協力施設である3団体・施設の責任者に責任者向け依頼書、同意書、研究対象者向け依頼書、調査票となる二次元コード及びURLを郵送する。
 - ② 研究協力施設のホームページに研究対象者向け依頼書と二次元コードおよびURLを掲載していただき、Google Formを用いて無記名自記式アンケート調査を行う。調査票はベトナム語と日本語で作成し、回答前にどちらの言語で回答するかを選択できるようにする。
 - ③ 研究協力施設に来所したベトナム人技能実習生に、相談員から調査の目的・調査内容、個人情報保護について説明してもらい、アンケート調査を依頼する。同意を得られた場合はホームページにアクセスし、二次元コードやURLからアンケート調査に回答していただく。
- ### 4) アンケート調査内容
- ① 基本属性：性別・年齢、滞在期間、日本語能力試験(JLPT)の受験の有無と結果、職業、保険証の有無
 - ② 気になる症状の有無
 - ③ 医療機関への受診経験の有無、受診した診療科、付添人の有無、予約方法
 - ④ 受診経験がない場合はその理由
 - ⑤ 受診行動を妨げる理由
 - ⑥ 受診行動を促す支援
- ### 5) 研究期間：東京純心大学の倫理審査会の承認後から12月31日までとする。
- ### 6) 分析方法：基本属性と受診行動を抑制する理由、基本属性と受診行動を促す支援、受診経験がない場合の理由と受診を促す支援についてのデータの単純集計を行い、統計的検定 χ^2 検定を行う。なお有意差は5%以下とする。

3. 倫理的配慮

研究協力施設と研究対象者に本研究の目的と内容、研究参加の自由、個人情報の保護など依頼文書にて説明する。研究協力施設は同意書の記載を依頼する。またGoogle Formを用いた調査票にはアンケートの回答を送信することを持ってこの研究協力を同意したものとみなす。なお、本研究は東京純心大学の倫理審査会の承認を受けて実施する。

〈文献〉

- 1) 国財人材協力機構(JITCO)：総合パンフレット、pp1-28,
https://www.jitco.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2022/09/JITCOpamphlet_202209update.pdf (2024年6月25日アクセス)
- 2) 厚生労働省、「外国人雇用状況」の届出状況まとめ「令和5年10月末時点」、
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_37084.html (2024年6月25日アクセス)
- 3) 小林由佳：結核蔓延国から来日した外国人技能実習生への結核対策、保健師・看護師結核展望57「2」：8-13、2020
- 4) 清水真由美：外国人技能実習生の健康課題と対処行動に関わる質的事例研究、日建医師30(3)、341-350、2021
- 5) 寺岡三左子、村中陽子：在日外国人が実感した日本の医療における異文化体験の様相、日本看護学会誌、Vol137、pp35-44、2017
- 6) 小寺さやか、上谷真由美：日本の大学に在籍する外国人留学生の保健行動と関連因子に関するパイロットスタディ、国際保健医療、第33巻 第4号 2018
- 7) e-Stat 政府統計の総合窓口、都道府県別の統計、<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250012&tstat=000001018034&cycle=1&year=20230&month=24101212&tclass=000001060399> (2024年10月17日アクセス日)